授業計画(シラバス)

科目名	電気基礎理論	指導担当者名	鈴木 透
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	54時間	週時間数	6時間
学習到達目標	工業における数学の基礎および電気工学の基礎がわかる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 実教出版「精選電気基礎」、授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	数学の基礎および電気基礎	学習の目的、理解度確認テスト、SI単位系
	2	数学の基礎および電気基礎	電圧、電流の基本的な性質
	3	数学の基礎および電気基礎	四則演算、最大公約数、最小公倍数
	4	数学の基礎および電気基礎	オームの法則
	5	数学の基礎および電気基礎	分数式の計算
	6	数学の基礎および電気基礎	半導体と絶縁体、電気抵抗
	7	数学の基礎および電気基礎	有理数と無理数、指数
	8	数学の基礎および電気基礎	直並列回路の合成抵抗
	9	数学の基礎および電気基礎	平方根と有理化
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	電気基礎理論	指導担当者名	鈴木 透
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	46時間	週時間数	6時間
学習到達目標	工業における数学の基礎および電気工学の基礎がわかる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト 実教出版「精選電気基礎」、授業時間内の資料配布		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後期	1	数学の基礎および電気基礎	交流回路の基礎
	2	数学の基礎および電気基礎	不等式
	3	数学の基礎および電気基礎	交流直列回路
	4	数学の基礎および電気基礎	一次関数
	5	数学の基礎および電気基礎	交流並列回路
	6	数学の基礎および電気基礎	ベクトル
	7	数学の基礎および電気基礎	力率
	8	数学の基礎および電気基礎	面積と体積
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	配電理論設計	指導担当者名	西内 俊介	
実務経験	電気工事会社にて電気工事に2年間従事		実務経験: 有	
開講時期	前期	対象学科学年	電気工事士専攻科	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
時間数	15時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	配電方式、配線、引込線の役割と特性がわかる			
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 			
使用教材	テキスト「第一種電気工事士筆記試験すいーつと合格」			
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	配電理論	電圧の区分	
	2	配電理論	低圧屋内電路の対地電圧の制限	
	3	配電方式	単相2線式	
	4	配電方式	単相3線式	
	5	配電方式	単相3線式	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	配電理論設計	指導担当者名	西内 俊介	
実務経験	電気工事会社にて電気工事に2年間従事		実務経験: 有	
開講時期	後期	対象学科学年	電気工事士専攻科	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
時間数	15時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	配電方式、配線、引込線の役割と特性がわかる			
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 			
使用教材	テキスト「第一種電気工事士筆記試験すいーっと合格」			
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	配電方式	三相3線式	
	2	配線設計	許容電流	
	3	配線設計	許容電流	
	4	配線設計	電路の絶縁と絶縁抵抗	
	5	配線設計	電路の絶縁と絶縁抵抗	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	電気機器材料	指導担当者名	西内 俊介
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	43時間	週時間数	3時間
学習到達目標	電気工事で使用する機器・器具・機械・工具等の名称・用途がわかる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト「第一種電気工事士筆記試験すいーつと合格」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	電気機器及び配線器具の構造及び性能	負荷と開閉器
	2	電気機器及び配線器具の構造及び性能	スイッチ
	3	電気機器及び配線器具の構造及び性能	コンセント
	4	電気機器及び配線器具の構造及び性能	配線用遮断器とヒューズ
	5	電気機器及び配線器具の構造及び性能	照明器具
	6	電気機器及び配線器具の構造及び性能	動力機器
	7	電気機器及び配線器具の構造及び性能	電動機
	8	電気機器及び配線器具の構造及び性能	直流電動機
	9	電気機器及び配線器具の構造及び性能	同期電動機
	10	電気機器及び配線器具の構造及び性能	誘導電動機
	11	電気機器及び配線器具の構造及び性能	電動機が動く原理
	12	電気機器及び配線器具の構造及び性能	三相かご型誘導電動機の構造
	13	電気機器及び配線器具の構造及び性能	三相かご型誘導電動機の特長
	14	電気機器及び配線器具の構造及び性能	三相かご型誘導電動機の始動方法
	15	電気機器及び配線器具の構造及び性能	三相誘導電動機の回転方向の変更
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	電気機器材料	指導担当者名	西内 俊介
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	47時間	週時間数	3時間
学習到達目標	電気工事で使用する機器・器具・機械・工具等の名称・用途がわかる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト「第一種電気工事士筆記試験すいーっと合格」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	電気機器及び配線器具の構造及び性能	単相誘導電動機
	2	電気機器及び配線器具の構造及び性能	変圧器のはたらき
	3	電気機器及び配線器具の構造及び性能	変圧器の原理1
	4	電気機器及び配線器具の構造及び性能	変圧器の原理2
	5	電気機器及び配線器具の構造及び性能	変圧器の原理3
	6	電気機器及び配線器具の構造及び性能	変圧器の容量
	7	電気機器及び配線器具の構造及び性能	単巻変圧器
	8	電気機器及び配線器具の構造及び性能	低圧進相コンデンサ
	9	電気機器及び配線器具の構造及び性能	直列リアクトル
	10	電気機器及び配線器具の構造及び性能	整流回路
	11	電気機器及び配線器具の構造及び性能	過電流遮断器と保護協調
	12	電気機器及び配線器具の構造及び性能	絶縁材料
	13	電気機器及び配線器具の構造及び性能	三相短絡電流と遮断容量
	14	電気機器及び配線器具の構造及び性能	三相短絡電流と遮断容量
	15	電気機器及び配線器具の構造及び性能	蓄電池と浮動充電方式
	16	電気機器及び配線器具の構造及び性能	蓄電池と浮動充電方式
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	電気工事施工	指導担当者名	西内 俊介
実務経験	電気工事会社にて電気工事に2年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	36時間	週時間数	3時間
学習到達目標	各種配線器具や材料の施工方法と基準がわかる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト「第一種電気工事士筆記試験すいーっと合格」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	配線工事の方法	施工場所と工事の種類
	2	配線工事の方法	がいし引き工事
	3	配線工事の方法	ケーブル工事
	4	配線工事の方法	地中配線
	5	配線工事の方法	合成樹脂管工事
	6	配線工事の方法	金属管工事
	7	配線工事の方法	金属可とう電線管工事
	8	配線工事の方法	金属線び工事
	9	配線工事の方法	金属ダクト工事
	10	配線工事の方法	ライティングダクト工事
	11	配線工事の方法	ショーウインドウ内工事
	12	配線工事の方法	ネオン放電灯工事
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	電気工事施工	指導担当者名	西内 俊介
実務経験	電気工事会社にて電気工事に2年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	34時間	週時間数	3時間
学習到達目標	各種配線器具や材料の施工方法と基準がわかる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト「第一種電気工事士筆記試験すいーっと合格」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	配線工事の方法	小勢力回路
	2	配線工事の方法	メタルラス壁貫通工事
	3	配線工事の方法	臨時配線
	4	配線工事の方法	露出配線
	5	配線工事の方法	天井隠ぺい配線
	6	配線工事の方法	壁隠ぺい配線
	7	配線工事の方法	床隠ぺい配線
	8	配線工事の方法	屋外配線
	9	配線工事の方法	引込口配線
	10	接地工事の方法	感電と地絡
	11	接地工事の方法	接地の目的
	12	接地工事の方法	各種接地工事の用途と方法
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	電気工作物検査	指導担当者名	西内 俊介
実務経験	電気工事会社にて電気工事に2年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	6時間	週時間数	3時間
学習到達目標	各種測定器を正しく使用し、目的の測定値を得て結果の良否を判断できる。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト「第一種電気工事士筆記試験すいーつと合格」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	点検の方法	電気回路や電気機器の点検、検査の方法
	2	導通試験の方法	回路計を用いた抵抗・電圧の測定
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	電気工作物検査	指導担当者名	西内 俊介
実務経験	電気工事会社にて電気工事に2年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	9時間	週時間数	3時間
学習到達目標	各種測定器を正しく使用し、目的の測定値を得て結果の良否を判断できる。		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト「第一種電気工事士筆記試験すいーつと合格」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	接地抵抗測定の方法	接地抵抗測定の方法と基準
	2	試験用器具の性能及び使用方法	検電器のしくみ
	3	試験用器具の性能及び使用方法	回路計のしくみ
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	配線図	指導担当者名	西内 俊介
実務経験	電気工事会社にて電気工事に2年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	27時間	週時間数	3時間
学習到達目標	配線図に使用される図記号を正しく読み取り、意味を理解できる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト「第一種電気工事士筆記試験すいーと合格」「第二種電気工事士技能試験すいーと合格」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	配線図の表示事項及び表示方法	配線図の見方と役割
	2	配線図の表示事項及び表示方法	配線の場所を表す図記号
	3	配線図の表示事項及び表示方法	電線の種類と数や太さの表し方
	4	配線図の表示事項及び表示方法	電線管を通す配線の表し方
	5	配線図の表示事項及び表示方法	配線の一般図記号
	6	配線図の表示事項及び表示方法	引込口配線の機器の図記号
	7	配線図の表示事項及び表示方法	照明器具の図記号
	8	配線図の表示事項及び表示方法	照明器具の図記号
	9	配線図の表示事項及び表示方法	コンセントの図記号
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	配線図	指導担当者名	西内 俊介
実務経験	電気工事会社にて電気工事に2年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	23時間	週時間数	3時間
学習到達目標	配線図に使用される図記号を正しく読み取り、意味を理解できる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト「第一種電気工事士筆記試験すいーっと合格」「第二種電気工事士技能試験すいーっと合格」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	配線図の表示事項及び表示方法	コンセントの図記号
	2	配線図の表示事項及び表示方法	スイッチの図記号
	3	配線図の表示事項及び表示方法	スイッチの図記号
	4	配線図の表示事項及び表示方法	電動機の図記号
	5	配線図の表示事項及び表示方法	電熱器配線の図記号
	6	配線図の表示事項及び表示方法	電気機器の図記号
	7	配線図の表示事項及び表示方法	単線図
	8	配線図の表示事項及び表示方法	ラダー図
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	法令	指導担当者名	西内 俊介	
実務経験	電気工事会社にて電気工事に2年間従事		実務経験: 有	
開講時期	前期	対象学科学年	電気工事士専攻科	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
時間数	20時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	電気に関する各種法令の目的と電気設備技術基準がわかる			
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 			
使用教材	テキスト「第一種電気工事士筆記試験すいーつと合格」			
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	法、令及びこの省令	電気に関する各種法規、令の種類	
	2	電気設備に関する技術基準を定める省令	電線の接続要件	
	3	電気設備に関する技術基準を定める省令	屋内電路	
	4	電気設備に関する技術基準を定める省令	過電流遮断器の施設	
	5	電気設備に関する技術基準を定める省令	過電流遮断器の施設	
	6	電気設備に関する技術基準を定める省令	低圧屋内幹線	
	7	電気設備に関する技術基準を定める省令	低圧屋内幹線	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施				

授業計画(シラバス)

科目名	法令	指導担当者名	西内 俊介
実務経験	電気工事会社にて電気工事に2年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	30時間	週時間数	3時間
学習到達目標	電気に関する各種法令の目的と電気設備技術基準がわかる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト「第一種電気工事士筆記試験すいーっと合格」		
授業外学習の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	電気設備に関する技術基準を定める省令	屋内電路
	2	電気設備に関する技術基準を定める省令	屋内電路
	3	電気設備に関する技術基準を定める省令	過電流遮断器の施設
	4	電気設備に関する技術基準を定める省令	過電流遮断器の施設
	5	電気設備に関する技術基準を定める省令	低圧屋内幹線
	6	電気設備に関する技術基準を定める省令	低圧屋内幹線
	7	電気設備に関する技術基準を定める省令	分岐回路の種類
	8	電気設備に関する技術基準を定める省令	分岐回路の種類
	9	電気設備に関する技術基準を定める省令	低圧機械器具の接地工事
	10	電気設備に関する技術基準を定める省令	低圧機械器具の接地工事
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	電気工事実習	指導担当者名	鈴木 透
実務経験	電気工事会社にて電気工事に10年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	288時間	週時間数	18時間
学習到達目標	電気設備技術基準に則った各種電気工事ができる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト「百万人の電気工事」		
授業外学習 の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	基本工具の使用法	切断工具、締め付け工具の名称と用途、使用法
	2	電線の接続	電線の種類、構造と名称
	3	電線の接続	巻きつけ接続、接続管・接続器具を用いた接続
	4	電線の接続	終端接続、延長接続、分岐接続
	5	電線の接続	接続箇所の絶縁処理
	6	電線の接続	接続箇所の保護
	7	配線工事	がいし引き工事
	8	配線工事	ケーブル工事
	9	配線工事	ケーブル工事(コンセントの回路)
	10	配線工事	ケーブル工事(スイッチ、負荷の回路)
	11	配線工事	ケーブル工事(スイッチ、負荷、コンセントの回路)
	12	配線工事	ケーブル工事(スイッチ、負荷、コンセントの回路)
	13	配線工事	ケーブル工事(スイッチ、負荷、コンセントの回路)
	14	配線工事	合成樹脂管工事(接続、切断加工)
	15	配線工事	合成樹脂管工事(曲げ加工)
	16	配線工事	合成樹脂管工事(曲げ加工)
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			

授業計画(シラバス)

科目名	電気工事実習	指導担当者名	鈴木 透
実務経験	電気工事会社にて電気工事に10年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	電気工事士専攻科
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	282時間	週時間数	18時間
学習到達目標	電気設備技術基準に則った各種電気工事ができる		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・授業態度 ・確認テストの成績 ・提出課題 ・期末試験 等の成績評価を100点満点で点数化して総合評価する 		
使用教材	テキスト「百万人の電気工事」		
授業外学習 の方法	テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	1	配線工事	金属管工事(接続、切断加工)
	2	配線工事	金属管工事(曲げ加工)
	3	配線工事	金属可とう電線管工事
	4	配線工事	金属線び工事
	5	配線工事	ライティングダクト工事
	6	コード及びキャプタイヤケーブルの取付け	コード及びキャプタイヤケーブルの施工
	7	配線工事	圧着器具と圧着端子による端末処理
	8	配線工事	曲げ・切断・切削工具の使用法
	9	接地工事	接地極の埋設
	10	配線工事	引込工事、引込口配線
	11	配線工事	金属ダクト工事
	12	配線工事	フロア床面の配線工事
	13	配線工事	平型保護層工事
	14	配線工事	特殊場所の工事
	15	配線工事	小勢力回路
	16	電気機器及び配線器具の設置	電動機制御回路
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な場合は遠隔授業も併用実施			